



「第二次日本経穴委員会」便り

～第15回 同意穴はこんなふうに見られる～

第二次日本経穴委員会・作業部会委員 かわはらやすひろ
河原保裕

第12・第13回作業部会会議

7月18日と8月7日に、第12回および第13回経穴委員会作業部会会議が開催された。目的は、9月に行われる大阪会議（関西鍼灸大学で開催）の打ち合わせと、大阪会議の事前調整のために8月16日～19日に中国で開催される特別会議の打ち合わせのため、今回はその報告をさせていただく。

第5回WHO非公式会議in関西に関しては、予定外の会議（本来は4月の韓国会議で終了予定だった）と言うこともあり、レセプションは予算がなく、各団体に働きかけることとし、またオープニングセレモニー、ウェルカムパーティーに各団体の代表に参加していただくことを話し合った。

本会議は、9月27日から29日まで3日間、関西鍼灸大学で開催される。今回は非公式での最終会議ということもあり、この3日間は朝から晩までしっかりと会議のための時間が組まれている。我々メンバーは、前日26日の昼に大阪に集合し、最終打ち合わせを行う。最終日29日は午後6時ころ解散予定だが、会議の進行によってはいつ終了するのか不明である。しかし、会場の都合もあるため、3カ国が協力し合い是非でも予定通り終了させなければならない。

大阪会議が終了すると、統一された経穴部位の英文化作業が開始される。英文で作成されたものを世界へ発信し、意見を取りまとめ、いよいよファイナルの公式会議の開催となる。最終公式会議誘致について、我々は是非とも日本での開催を希望しているが、韓国、中国も誘致に名乗りをあげていて、会議の中で熾烈な駆け引きが取り交わされることであろう。一応、日本としては、会場、開催地はどこかを予め提示して、エントリーしたいと考えている。

特別会議準備のための内容は、同意穴の再確認である。同意穴の部位を3カ国で再確認し基本的な合意をして、9月の関西鍼灸大学での最終会議で了承を得るためである。再検討穴があっても、会議の初日の半日で終了させるための調整でもある。そのため北京特別会議では、確定しているルールを再確認したり、日本側の妥協できる点と妥協できない点も確認しておく必要がある。この会議の準備をしていて、同意穴の中で部位の表現の異なるものが意外に多いこと、また表現を突き詰めると部位がわずかに異なっていたりと、改めて気付く点も多かった。

同意穴表現の結果いろいろ

では、実際に特別会議で行われた同意穴の表現の確認事項と、その結果をいくつか紹介した

い。

支正：【検討事項】尺骨の骨際か筋肉か？ 尺骨の尺側か桡側か？ 流注を考えると尺側とみられる。中国の尺骨内縁は尺側で骨際のことか？ 確認が必要である。古典には筋肉の記載は『外治巻』のみに骨上廉肉分間とあり、それ以外に筋肉の記載はない。

【決定草案】在前臂後區、腕背側遠端横紋 (the dorsal crease of wrist) 上5寸、尺骨尺側与尺側腕屈肌之間 (前腕後部、前腕背面の遠端横紋の上5寸、尺骨尺側と尺側手根屈筋の間)。

注：陽谷 (SI5) 與小海 (SI8) 連線的中點下1寸 (陽谷 (SI5) と小海 (SI8) を結ぶ線上の midpoint の下1寸)。

天宗：【検討事項】部位は、「肩甲骨部にあり、肩甲棘の midpoint と肩甲骨下角を結ぶ線上で第4胸椎に並ぶところにある」肩甲棘の高さが第3胸椎棘突起と並ぶという、体表解剖学上の指標を利用しようという意図は理解できるが、部位が安定しているとは思えない。胸椎を基準に持つてくるのは肩甲骨が動くため狂いが出やすいので、肩甲骨のみを基準にするべきではないか。日本は中央 (1/2)、中国・韓国は1/3を提示している。

【決定草案】在肩胛區 (the region of scapula)、肩胛岡 (spine of scapula) 中點与肩胛骨下角連線約当上1/3與下2/3交點凹陷處 (肩甲骨部、肩甲棘 midpoint と肩甲骨下角を結ぶ線上で、上から1/3と下から2/3の交点の凹陷部)。

通天：【検討事項】中国は取穴で「承光と絡却の間、四神聡の前の穴に並ぶ」とあるが、四神聡は奇穴なので用いない方がよいのではないか。

【決定草案】在頭部、前髮際正中直上4寸、旁開1.5寸 (頭部、前髮際正中の直上4寸で傍ら1.5寸)。注：承光 (BL6) 與絡却 (BL8) 中間 (承光 (BL6) と絡却 (BL8) の中間)。

天池：【検討事項】乳頭という表現で基準を決めるのは、男子にしか用いられない。部位表現に男女差をつけない方がよい。「正中から外方5寸で第4肋間を取る」がよいのではないか。古典は乳頭からの標記になっているが、現実味がないのではないか。

【決定草案】在胸部、第4肋間隙 (intercostal space)、前正中線 (anterior midline) 旁開5寸 (胸部、第4肋間隙で、前正中線の傍ら5寸)。

(付：決定草案は中国語と英語で決められた表現である。北京特別会議後に委員会が開催されていないため、() 内の日本語は、河原が今回の記事のために急遽直訳したものであり、正確な日本案の表現ではない)

再度、日本案を持ち込んだ北京特別会議も無事終了し、上記 (一部) のような結果が得られた。その結果、12穴が新たな保留穴として残り、現時点では、韓国会議の積み残しと合わせて、33穴が非同意穴として大阪会議で検討される予定である。

(〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町2-3-1
第二大矢部ビル2F アコール鍼灸治療院)